

## 鑑定！あなたの名文拝見

国語 国語表現Ⅰ 第2学年  
石川県立金沢西高等学校・教諭

### 1 事例の概要

**生徒の実態** ①読書感想文（夏休みの宿題）→ただ原稿用紙を埋めて提出すれば良い  
②文章を書く意欲の低下 ※詳細は**指導案**に記載



**取り組みの出発点** ①生徒1人1人が良い文章表現とは何かを考え、自分が書いた文章を客観的に見つめる機会を作る必要がある。  
②作文指導の中で「話すこと・聞くこと」「書くこと」における表現力を伸ばす機会を設ける必要がある。



**つきたい力** ①集中力を持って文章を聞き取り自分の意見をもつ力  
②相手の立場や考えを尊重しながら自分の意見を適切に表現する力  
③他者の作品を評価することをとおして身に付ける文章表現力



読書感想文鑑賞会

### 2 実践内容

#### (1) 単元の目標

文章の表現や内容を聞き取り、吟味し、相互評価をとおして文章表現のポイントを理解する。

#### (2) 指導上の工夫点

##### ① 全員が共通理解している文章を使用しなければならない。

- ア 5編の文章を指定（複数の分野の文章を用意し、生徒に自由に選択させ、興味・関心を持たせて感想文を書かせる。）
- イ 各文の主題を把握（5編全ての文章を把握させ、どの文章の感想文を聞いても互いに評価できるようにする。）
- ウ 主題の発表とプリントへの記入（生徒の活動を把握し、評価する。）

##### ② 全員が鑑定士であり、出品者でなければならない。

- ア 感想文は匿名にして教師が朗読する。（生徒の手に印刷されたものは置かない。）
  - 集中して聞き、良く考え、読まれた感想文について適切な言葉で評価→緊張感を持つ。
- イ 全員が必ず良い点と再考すべき点を考え、プリントに記入するとともに、発表する。
  - 評価する立場と評価される立場を経験する。
    - ・ 全員が同じ立場→開放感→話せる雰囲気になる。
    - ・ 相手の立場を尊重→適切な評価を心掛ける。
    - ・ 他者評価が自己評価へ→自己の作品を客観的に見つめる。
    - ・ 教師は、発表だけでなく、書き込んだプリントを活用し生徒の活動を把握する。
- ウ 教師の講評は最小限に控える。

**B-1 主題まとめプリント**

**B-2 読書感想文鑑賞会プリント**

### 3 指導の実際

#### (1) 読書感想文鑑賞会までに (第1次 1時・2時・3時)

- ① 教科書掲載の文章5編についてそれぞれの主題を確認し、共通理解を図る。
  - ・音読し主題を発表する。プリントにメモとまとめを記入
  - ※詳細な読解に陥らないように、主題となる文章の抜き出し程度に止める。
- ② 5編の内、自分の書きやすい1編を選び、読書感想文を書く。(800～1000字程度)
  - ※選択の幅を持たせることで、生徒の書くことに対する抵抗感を少なくする。

#### (2) 読書感想文鑑賞会 (第2次 4時・5時)

- ① 教師による生徒作品の朗読→生徒は聞きながら「良い点」「再考すべき点」をメモする。
- ② 2～3人に指名し発表させる。その際、必ず「良い点」「再考すべき点」についてコメントするように指示する。
- ③ 生徒のコメント後、教師が生徒の意見をまとめ簡単な評価を添えて、次の作品に移る。
- ④ 各時間の終わりには、生徒が出した意見をまとめ文章表現の注意点を確認する。

【生徒作品に対する「良い点」「再考すべき点」で多かったもの】

#### 「良い点」

- ・体験談の使用
- ・適切な具体例の使用
- ・表現の工夫 (ことわざなどを引用)
- ・主張の分かりやすさ

#### 「再考すべき点」

- ・話し言葉の多用 ・語句の誤用
- ・長すぎる一文 ・適切でない具体例
- ・文末が同じ表現の繰り返し
- ・作品の内容説明が多く自分の感想が少ない

### C-1 指導案

### 4 成果と課題

#### (1) 成果

- ① 教師の朗読を生徒が聞いて書くことで、集中力や聞き取る力、考える力を鍛えることができた。
- ② 5編の作品の主題を全員で共通理解することで、どの作品に対しても評価しあえるという全員参加の意識で授業に臨むことができた。
- ③ 5編から書きやすい作品を選択することで、書くことへの抵抗感を軽減することができた。
- ④ 評価をプリントに書くだけでなく発表することで、評価がより適切なものになるとともに、他者の発表内容と重ならないように複数の評価ポイントを考える態度が見られた。

#### (2) 学習の定着

##### 【その後の「国語表現」の授業で】

「歴史上の人物調べ」(調べたことを発表)

→発表態度や表現が聞き手を意識したものになった。

「物語鑑賞会」(生徒が書いた物語を同様の授業形態で評価し合う)

→評価内容が文章表記的なものから、内容や構成に関連したものへと変化し深まりが見られた。

#### (3) 課題

- ① 「再考すべき点」の指摘に関して、文章表現上の誤りや語句の使い方に関するものが多かった。それは確かにねらいどおりではあったが、上記(2)で記した「物語鑑賞会」では内容や文章構成、表現の工夫等についての指摘が多くなり、深まりが見られたことから、「物語鑑賞会」を先に実施した後に「読書感想文鑑賞会」を行う方が良かったかもしれないと考えられる。
- ② この実践は、選択科目「国語表現」の授業(生徒数17名)で実践したものであるが、生徒の人数の多さにも対応できる効果的な展開を考えていく必要がある。